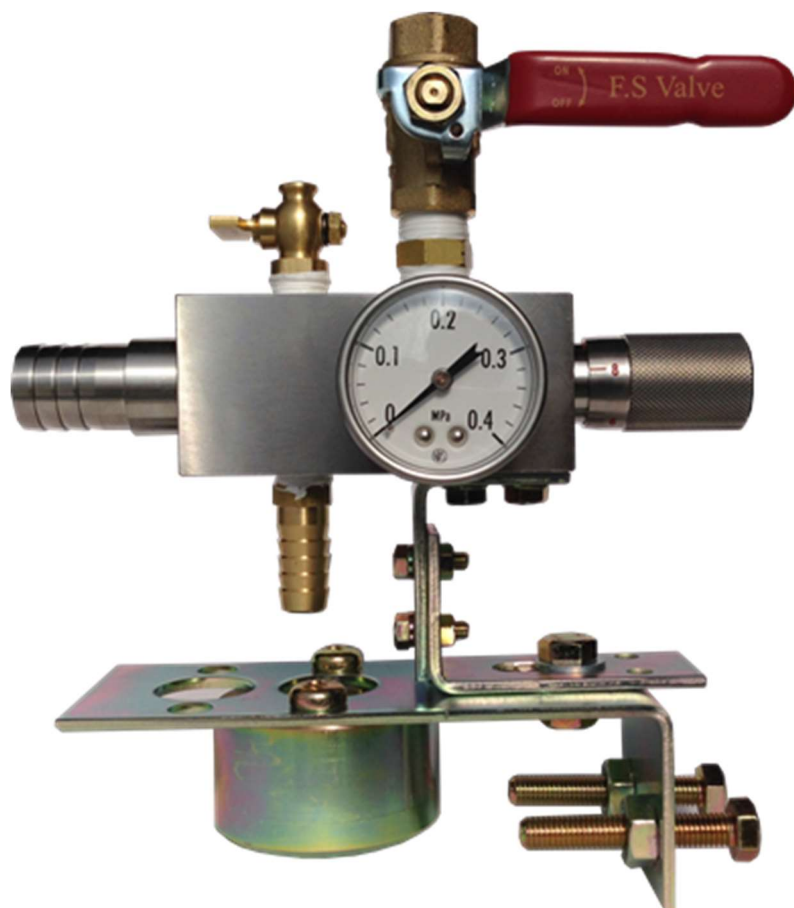


水溶性油剤の希釈作業の省力化に！

自動希釈バルブ

KS-ADV2

水の流速で原液を吸上げ水に混入して、最適な希釈濃度を調整・管理する器具です。



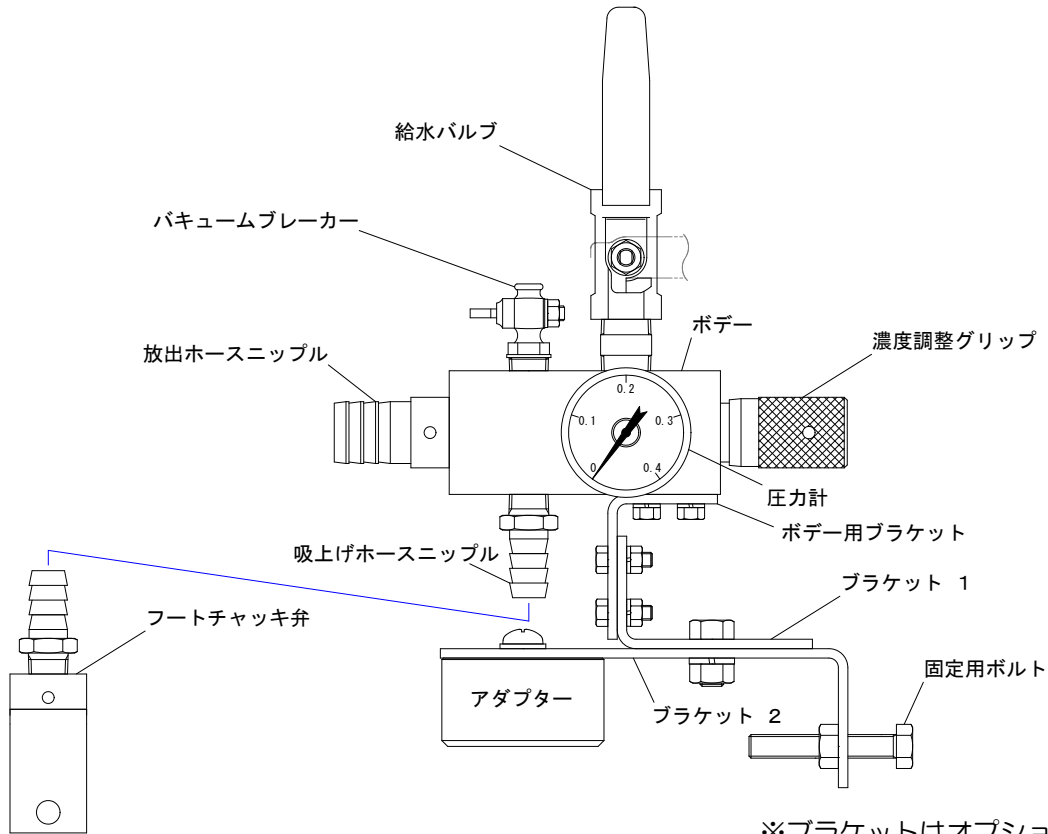
【特徴】

1. 圧力 0.1MPa 以上の水が供給できれば、どこでも使用することができます。
2. 混合比は 0~35% の高性能で正確な調整が出来ます。但し、油の成分により変動します。
3. 希釈作業者の負担を軽減することができ、均一な希釈濃度を保つことが出来ます。
4. ドラム缶やペール缶、あるいは柱などに簡単に取付けることが出来ます。



株式会社ケイエステック

外形図及び部品



その他の付属品

1. フリードホース	19mm	(放出用)	2m	4. ホースバンド	S/20~32	(放出用)	1ヶ
2. フリードホース	12mm	(吸上用)	2m	5. ホースバンド	S/12~20	(吸上用)	2ヶ
3. フットチャッキ弁			1ヶ				

取り付けかた

1. 吸上げホース (12mm) の一方にフット弁を取付け、他の一方をアダプターに通して、吸上げホースニップルに差し込み、ホースバンドでしっかり止めてください。ホースはフット弁が缶の底につく長さで止めてください。
2. 放出ニップルにホース (19mm) を差し込み、ホースバンドで止めます。
3. 缶の種類に応じて、ブラケット 1 とブラケット 2、アダプターの位置を変えて液取り出し口に差し込み、ボルトで固定してください。
4. 給水栓から引いたホースを給水バルブに接続してください。
5. 支柱等に取り付ける時は、ブラケット 1 を使い、ブラケット 2 は不要です。

[注意事項]

- 上水道への直結は、法律で禁止されています。
- ホース類は折れ曲がらないようにしてください。また、定期的に折れがないかチェックしてください。
- 密閉タンクには使用しないでください。タンクが一杯になり逆流する可能性があります。

※上記の注意事項をお守りいただかないと、重大な被害を及ぼす場合があります。

取り付け参考図

- ペール缶に直接取り付ける際は、ブラケットが必要になります。ブラケットはオプションになります。
- 下記参考図にあります、ブレードホース、ホースバンドは付属品として同梱されていますのでそれをご使用ください。
- ホース類は折れ曲がらないようにセットしてください。
- 自動希釈バルブへ接続する水配管はお客様にてご準備ください。

※ホースの先端には、配管やコック等を付けずにそのまま使用してください。
ホースを延長したりしないでください。

水配管からの接続につきましては
お客様にて準備してください。
接続サイズ Rc3/8

先端が浸からないように
注意してください。

自動希釈バルブ本体

ブレードホース
内径 19 mm

ホースバンド
S/20~32

ホースバンド
S/12~20

ブラケット

クーラントタンク

ペール缶

ブレードホース
内径 12 mm

ホースバンド
S/12~20

フットチャッキ弁

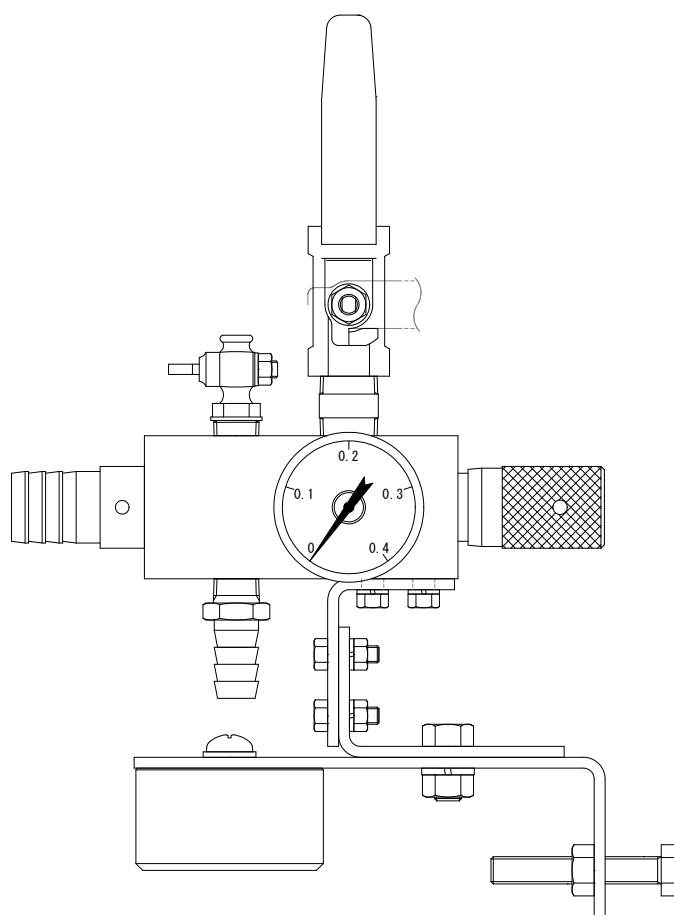
立てた状態で取り
付けてください。

*ペール缶と一斗缶の適合口金サイズの B40 のみとなります。

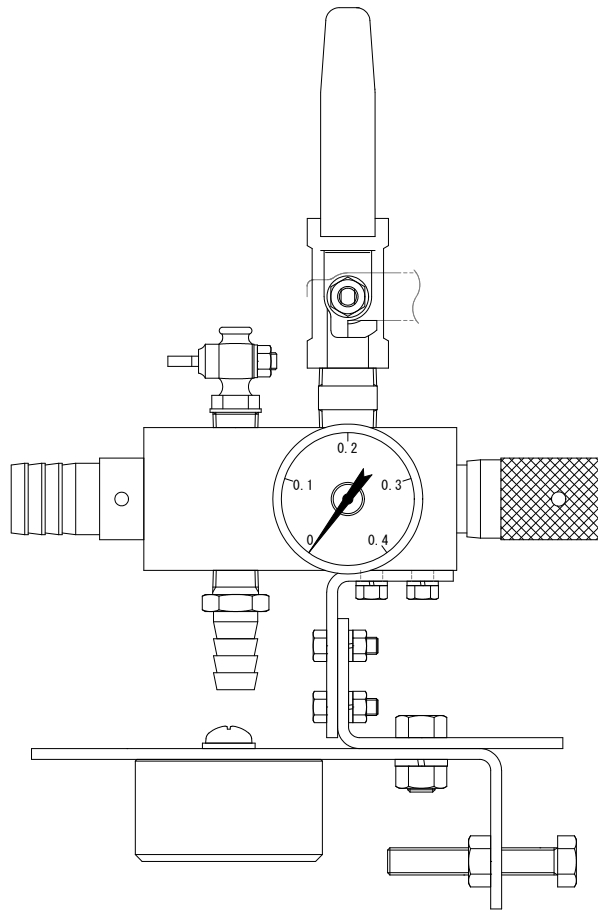
操作のしかた

1. バキュームブレーカーが閉じていることを確認してください。
つまみが縦方向にて開、横方向にて閉となります。(外形図にある状態が閉となります。)
2. 給水バルブを全開にしてください。
3. 濃度調整グリップを左(反時計回転)に2~3回まわし開けます。
4. 供給圧力が0.1MPa以上で安定していることを確認し、その圧力値を設定圧として記録してください。
5. 濃度調整グリップの操作は、ゲージの数字が大きくなるほど、原液の吸上げ量は多くなります。
適正な濃度になるよう位置を設定してください。以後は、給水栓を開くだけで、適切な希釈液を作ることが出来ます。設定圧が変動すると濃度が変わりますので、供給圧力は一定になるようにしてください。
6. 原液の入った缶が高い位置にあって、作動を停止しても液が流れ出す場合は、バキュームブレーカーを開いて、原液の吸上げを停止させてください。また缶の位置を低いところに変更してください。
※出来る限り缶の位置は希釈バルブより低いところにしてください。
7. 万一、放出側がつまった時は給水バルブを閉め、バキュームブレーカーを開いてから復旧してください。

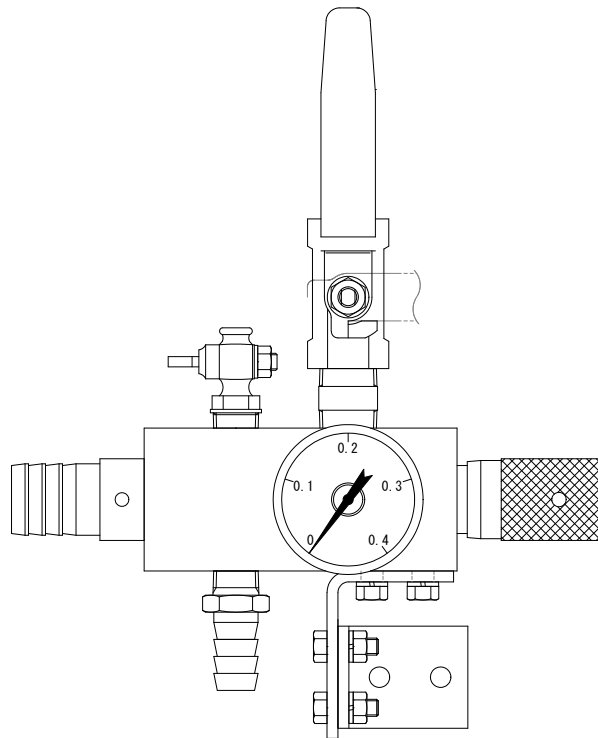
ブラケットの取り付けかた



ドラム缶



パール缶



支柱等

希釈がうまくいかない場合は以下の内容をご確認ください。

【不具合内容】

希釈できない。濃度調整グリップを開いても濃度があがらない。水が原液タンクに逆流する。バルブを閉じてても原液が希釈液タンクの方へ勝手に流れる。

- ① 放出側のホースを延長したりバルブや配管をつけたりしてませんか？放出側のホースはそのままの状態でご使用ください。
- ② バキュームブレーカが開いていませんか？コックが横になっている状態が閉じている状態です。
- ③ 通常希釈バルブを全開にした状態で放出側のホースからは18L/分の希釈液が出ますが、極端に量が少なくなっていないですか？本体内にゴミが詰まった場合、希釈液の出る量が減りメーターの値が通常より高くなります。
- ④ 吸上げホースを延長していませんか？吸上げホースが長くなるほど希釈能力が下がります。
- ⑤ 吸上げホースの先にあるフートチャッキ弁が詰まっていませんか？フートチャッキ弁の先から除くと金属の玉が見えます。細いドライバー等で玉を押し、球が動くことを確認してください。
- ⑥ 現場の気温が低くなっていませんか？気温が下がると原液の油の粘度が上がるため、吸い上げる量が少なくなっていくます。
- ⑦ 使用する原液の動粘度をご確認ください。動粘度が高い液だと希釈濃度が下がります。使用する環境にもよりますが、動粘度 150 mm²/S で MAX 濃度が約10%程度です。
- ⑧ 放出側のホースのホースの先が希釈液タンクの液面につかいていませんか？放出側のホースの先が液面につからないようにしてください。